



DH SYSTEM
大日本塗料株式会社

商品番号 1888

エポオールNS-R

1. 一般名 無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料
2. 規格 社内規格
3. 特徴 1) 無溶剤形のため有機溶剤中毒の危険がなく、引火爆発の危険性も非常に少ない。
2) 旧塗膜との付着性にすぐれており、耐食性にもすぐれている。

4. 塗料性状

項目	内容			
容姿	2液性			
荷姿	10kg \times 20(主剤:8.0kg、硬化剤:2.0kg)			
色相	黒、淡彩色			
密度 (23°C)	塗料	1.48(黒)		
	揮発分	—		
加熱残分	100%(黒)(理論値)			
乾燥時間	温度	10°C	20°C	30°C
	指触	18時間	8時間	6時間
	半硬化	40時間	20時間	16時間
標準膜厚	120 μ m			
引火点	SDS参照			
爆発限界(下限~上限)	SDS参照			

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

5. 塗装基準

項目	内容	
素地調整	3種ケレン(塗替)	
調合法	主剤:80部、硬化剤:20部(重量比)	
可使時間	20°C	
	1時間以内	
温度・湿度制限	温度:10°C以下、30°C以上、湿度:85%RH以上 このときは塗装してはならない。	
洗浄用シンナー	エポオールシンナーA(洗浄用)	
塗 装 法	塗装方法	刷毛塗り
	希釈率	—
	標準使用量	300g/m ²
	標準膜厚	—
	ウェット管理膜厚	—
塗装間隔 (20°C)	最小	2日
	最大	10日

注) 標準使用量は被塗物の形状や塗装条件によって異なる。

6. 施工上の注意

- (1) 被塗面のさび、油脂、湿気、じんあい、水分、その他の有害な付着物は完全に除去する。
- (2) 使用時には主剤と硬化剤を規定の割合に混合し十分に攪拌して均一な塗料状態にする。
- (3) 低温(5°C以下)になると乾燥と作業性が著しく悪くなり、また高温(30°C以上)になると可使時間が著しく短くなるので塗装作業時の気温が20°C~30°Cの時期に行うと良い。
- (4) 主剤と硬化剤を混合した後は可使時間以内に使い尽くすこと。
- (5) 皮膚に付着して放置しておくことと薬傷をおこしたり、吸入すると健康障害を起こすおそれがあるので作業時にはできるだけ皮膚にふれないようにし、作業場所には局所排気装置を設けること。
- (6) 旧塗膜ターレエポキシへの塗替ではブリード現象を生じることがある。

7. 関連法則

	主 剤	硬 化 剤
危険物表示	指定可燃物	第4類第3石油類
有機溶剤区分	—	—
有害物質表示	SDS参照	SDS参照
劇物表示	—	イソソジアミン 11.6

8. 使用上の注意 [警告]

- (1) 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。